

SOSネットワークと高齢者見守り活動の違い

—認知症の行方不明者を検索する地域サポートのあり方—

The differences between SOS network and elderly person watching activities
—Ways of community support to search a missing person with dementia—

黄嘉倫 HUANG, Jialun

立教大学大学院 コミュニティ福祉学研究科 コミュニティ福祉学専攻 博士課程前期課程2年
キーワード：SOSネットワーク、高齢者見守り活動、地域サポート

The number of the elderly of dementia and missing persons because of dementia has been increasing. It is important to support elderly of dementia in the community, because many of them wish to keep living in the area where they lived for a long time. SOS network is effective for searching the missing person. In this study, I compare the cases of elderly person watching activities for finding the difference between SOS network, and elderly person watching activities closely tied to local communities. Also, I did it for finding the way of community support for the elderly of dementia.

1. はじめに

2007年、日本は超高齢社会に入った。その後人口の急増は止まらず、2014年10月1日時点で日本は3,300万人の高齢者を抱え、高齢化率は26.0%を占めている（内閣府、2015）。

高齢化の進展に伴い、認知症高齢者も増加し続けている。厚生労働省の推計によると、2012年時点で全国の認知症高齢者数は462万人、高齢者の15%に達している。また、認知症の予備軍とされる「軽度認知障害」の高齢者は400万人に上ると推計されている。つまり、高齢者の4人に1人は認知症または軽度認知障害者であるということになる（厚生労働省、2014）。

認知症高齢者が増加することにより、社会に及ぶ影響の一つとして、徘徊の問題が挙げられる。近年、徘徊による鉄道事故などがよく新聞に取り上げられ、この問題が注目されつつある。警察庁の調査によると、認知症が原因で行方不明になった人数と行方不明者全体に占める割合

は、2012年度は9,607人と11.8%（警察庁、2013）、2013年度は10,322人と12.3%（警察庁、2014）、2014年度は10,783人と13.3%（警察庁、2015）となっている。このように、認知症高齢者が徘徊などの原因で行方不明になったケースは確実に増加しているとみられる。

2014年6月、厚生労働省は行方不明になった認知症の人等に関する調査を行い、同年9月、その調査結果を公表した。調査結果によると、全国1,741市区町村のなかで、認知症の行方不明者の状況を把握しているのは855市区町村で、認知症の行方不明者は5,201人であった。そして、その中で未発見者は132人であり、死亡者は383人である（厚生労働省、2014）。

実際、徘徊行為によって行方不明になった認知症の本人は言うまでもなく、その家族にも大きな精神的ダメージを与える。きちんと見守れなかった悔しさ、探しても探しても見つからなかった無力感、発見したとしても、またいつかいなくなるのかもしれないことへの心配や恐怖

などが、すべて家族のストレスになってしまう。また、認知症高齢者が行方不明になった際、時間が経つにつれ死に至る可能性が高くなる。

林谷らは認知症の周辺症状（Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia=BPSD、以下BPSD）を対応の困難さで三つのグループに分けている。その中で、徘徊はグループIに分類されており、もっとも対応が困難なグループに属している。また、BPSDのなかで、徘徊は比較的高い割合で出現するという（林谷ら、2014）。換言すれば、高齢者が認知症になった場合、徘徊する可能性が高いが、その介護者（とりわけ在宅介護の場合は家族）が徘徊に対応することは非常に難しいといえる。

一方、住み慣れた地域で生活し続けることを望んでいる認知症高齢者が多くと見られる。内閣府の統計によると、全国の55歳以上の高齢者の中、「自宅で介護してほしい」が34.9%で最も多く、続いては「病院などの医療機関に入院したい」が20%、「介護老人福祉施設に入所したい」が19.2%である（内閣府、2012）。

これらの現状を踏まえると、地域に生活する認知症高齢者が徘徊で行方不明になった際、行方不明者の捜索にあたり、地域サポートが重要になってくる。

地域サポートの一つとして、SOSネットワークが挙げられる。SOSネットワークは地域の力を合わせて、行方不明者を発見・保護するために有効なシステムである。永田（2011）は、SOSネットワークを「認知症の人が地域の中で安心・安全に暮らし続けられるように、地域の多様な人々や組織等が普段から見守りながら行方不明になることを未然に防ぎ、万が一、行方不明が発生したときに、スムーズに連携協力しながら、本人を早期に発見し守るためのネットワークである」と定義している。SOSネットワークの構成機関・団体として、警察、消防、社会福祉協議会、地域包括支援センター、町内会、タクシー

会社、コンビニエンスストア、コミュニティFM局、新聞社などが挙げられる。

SOSネットワークの他に、全国でふれあいサロンの開催、見守り推進員の配置など数多くの地域に密着している高齢者の見守りに関わる活動が行われている。

しかし、「高齢者の見守り」といえば、高齢者の孤独死、社会的孤立、高齢者虐待などの防止に関するものが多く、認知症高齢者の徘徊問題に対応する活動は少ない。

東京都福祉保健局によれば、現在日本各地で行われている見守り活動は、大きく分けて3種類あるという。地域住民や民間事業者が日常生活、日常業務の中で行う「緩やかな見守り」、民生委員、児童委員、老人クラブ、住民ボランティアが定期的に行う「担当による見守り」、そして地域包括支援センター、シルバー交番¹⁾等の専門機関の職員が行う「専門的な見守り」である（東京都福祉保健局、2013）。この3種類の見守りの方法から見て、徘徊による行方不明の認知症高齢者の対応は「専門的な見守り」に属していると思われるが、その詳細を見てみると、「主に、対応拒否、家族による虐待、認知症など、困難な課題を抱えている高齢者等に対して、専門的な知識をもって行う見守りです。定期的な訪問によって行い、必要に応じて、行政、介護サービス、医療などの関係機関につなぎます」（東京都福祉保健局、2013）ということで、確かに認知症高齢者にも対応するが、介護サービスの利用相談などに止まり、徘徊して行方不明になった高齢者を実際に捜索する機能は含まれていないことが見てとれる。

見守りの定義からもその状況が窺える。保高は、見守りとは、「名前のない高齢者サービスの総称という側面があるが、ここでは単身または高齢者のみの世帯に対し、その安全が害されないよう、周囲の者がする配慮」と定義している（保高、2000）。また、小林は、高齢者の見守り

を、「一人暮らし高齢者、認知症高齢者、要介護高齢者などに関する孤独死・孤立死、虐待、健康不安、ゴミ屋敷、悪質商法などを防止するための活動」と定義している(小林, 2011)。さらに、神崎は、地域で暮らす高齢者の見守りの概念を、「高齢者の心情や状況を考慮した距離を保持して、観察や測定による安否の確認をすることや住民や機関が協力して対象を把握すること」と定義している(神崎, 2013)。

以上のように、「高齢者の見守り」の定義には、高齢者の社会的孤立、孤独死などに関する記述が多く、認知症高齢者の徘徊問題に触れるものは少ないことが分かる。

2015年7月に、「高齢者」と「見守り」をキーワードに、CINII (Citation Information by NII) で検索した結果、ヒットした件数は395件であった。そのなかに認知症と関連するものは24件で、全体に占める割合は約6.1%である。また、地域の力を発揮して認知症高齢者の見守りに取り組むことに関連するものは、わずか4件しかヒットしなかった。そして、「認知症」と「徘徊」をキーワードとして検索した結果、ヒットした件数は88件であり、そのなか、地域で徘徊する認知症高齢者を見守る内容に関わるものは3件しかなかった。全体に占める割合は約3.4%である。この数字から、認知症高齢者の徘徊問題に対応する地域見守りの活動に関する調査・研究は少ないと考えられる。

従って、本稿では、SOSネットワークの活動が、地域に密着している高齢者見守り活動と比べ、どのような違いがあるのか、また、認知症高齢者の徘徊問題に対する地域サポートはどうあるべきかを明らかにすることを目的とする。

II. 研究内容

1. 研究対象

厚生労働省がホームページで公表している先行事例：「孤立死防止対策取組事例の概要」

Googleで「高齢者」、「見守り」、「事例集」をキーワードに検索した結果：「『孤立死』対策としての見守り活動に係る個人情報取扱事例集」「平成23年度地域見守り体制構築事業 高齢者等の相談・見守り活動に係る取組事例集」「東京都における高齢者見守り活動・事業事例集～高齢者を地域で見守る50のヒント～」 「高齢者見守り・支え合い活動推進事業 モデル取組地区活動事例集」「一人暮らし高齢者見守り活動事例集」「高齢者見守り・支え合い活動事例集」

2. 研究方法

上記の先行事例と事例集から収集した115団体の活動について、実施主体(行政、社会福祉協議会、NPO・ボランティア団体等、町会・自治会、商店街、その他)、見守り(声掛け・自宅訪問・安否確認・緊急連絡等、名簿作成・利用者の事前登録・支え合いマップの作成等、相談窓口、行方不明高齢者の捜索・保護、その他)、生活支援(ゴミ出し等の日常生活支援、配食・宅配・送迎等のサービス)、生きがい支援、連携(官公、民間、産業、学校)、情報共有(連絡会議・例会、研修・養成講座、チラシ・ポスター・会刊の作成・説明会・啓発会等)といった6項目に分けて、分析を行った。

III. 研究結果

表1で示しているように、見守りの項目のなかで、「a. 声掛け、自宅訪問、安否確認、緊急連絡など」を活動内容としている団体ももっとも多く、90団体あり、全体の約78.3%を占めている。一方、同じく見守りの項目において、「d. 行方不明高齢者の捜索・保護」を実施している団体は3カ所しか存在しておらず、全体の約2.6%となっている。その3つの団体のなかで、SOSネットワークのシステムに属しているのは、東京都練馬区認知症高齢者徘徊対策ネットワーク、熊本県吉市高齢者見守りネットワーク・徘徊

SOSネットワーク²⁾の2つである。そして、全ての活動団体において、お茶会、お花見、交流会などの生きがい支援に取り組んでいる団体は57、全体の約半数を占めている。これらの数字から、現在、日本において実際に活動している高齢者の見守り活動に、高齢者の社会的孤立・孤独死の防止を主な目的として活動を展開しているものが多いことが明らかである。そして、「徘徊などの原因で行方不明になった認知症高齢者を実際に検索・保護する」といった内容を活動内容に取り組んでいる団体は極めてわずかであることが分かる。

このことから、全国の市区町村において、認知症高齢者の徘徊による行方不明の問題の深刻さに対する認識が不足しており、また、そのために地域における行方不明者の検索システムの構築もほとんど展開されていないと考えられる。

しかし、年間1万人以上の認知症高齢者が徘徊などの原因によって行方不明になったという現状を考えて、認知症高齢者本人および家族のためにも、そして地域や国全体を安心・安全な場にするためにも、行方不明者の検索システムを構築しなければならない。

実際に行方不明者を検索・保護する活動団体のなかに、SOSネットワークがどれくらいを占めているのかを整理したところ、6割以上占めていることが分かった(表1)。換言すれば、行方不明の認知症高齢者の検索・保護において、SOSネットワークは重要な地位を占めていると言える。つまり、認知症高齢者の行方不明者の検索において、SOSネットワークの重要性は高く、SOSネットワークの整備及び継続的運営が求められている。

表1 高齢者見守り活動(SOSネットワークを含む)比較

名称	実施主体	見守り	生活支援	生きがい支援	連携	情報共有
東京都中央区月二之部あんしん協力委員会	c	a b	/	あり	a b	/
東京都足立区千住仲町まちづくり協議会熟年いきいき部会	c	a b	/	あり	b	a
東京都練馬区老人クラブ連合会	c	a	a b	あり	a	c
東京都東大和市見守り・声かけ活動地区委員会	b	a b	/	あり	a	a b c
東京都あきる野市ふれあい福祉委員会	b	a	/	あり	/	b c
東京都武蔵村山市小地域福祉組織化事業	b	a	a	あり	/	a
東京都三鷹市ほのぼのネット活動	b	a b	a	あり	c	a
東京都大田区多摩川芙蓉ハイツシニアクラブ	c	a b	a	あり	/	c
東京都荒川区傾聴ボランティアグループ「ダンボの会」	c	a	/	/	b	a
東京都江東区都管亀戸9丁目2号棟自治会	d	a b	/	/	a b	/
東京都立川市大山ママさんサポートセンター	c	a b c	a	あり	a c	/
東京都世田谷区ふれあいサービス	b	b	a	/	b	/
東京都足立区ころつえシニア相談所	a	a c	a	あり	/	/
東京都八王子市片倉台福祉ネットワーク	c	a	a	あり	a b	b c
東京都国立市NPO法人すずらん	c	a b	b	/	a b c d	/
東京都武蔵村山市商店工会・村山団地中央商店街	e	/	b	/	a	/
東京都立川市高齢社会の食と職を考えるチャンプルーの会	c	a	a b	/	/	/
東京都足立区あだち配食サービス協力店連絡会	e	a	b	/	a	a b
東京都板橋区高齢者あんしん協力店	e	a	/	/	a	b
東京都日野市認知症徘徊高齢者SOSネットワーク	a	b d	/	/	a b c	a c

名称	実施主体	見守り	生活支援	生きがい支援	連携	情報共有
東京都練馬区認知症高齢者徘徊対策ネットワーク事業	a	a b d	/	/	b c	b
東京都中野区地域支えあいネットワーク	a	b c	/	/	b	/
東京都渋谷区セーフティネット見守りサポート事業	a	a b	/	/	/	a b
東京都墨田区文花高齢者みまもり相談室	a	a b c	/	/	b d	b
東京都足立区あだち団塊のネット「サエラ」	c	/	/	あり	a	/
東京都西東京市きらっとシニア倶楽部	c	/	/	あり	a c	b c
東京都武蔵野市ボランティアセンター武蔵野おとぼ実行委員会	c	/	/	あり	b	b
東京都江東区ニューライフマンション木場自治会	c	a b	/	あり	/	c
東京都東久留米市コンフォール東久留米管理組合	d	a	/	あり	a b	b c
東京都国分寺市黒鐘自治会	d	a	/	あり	a b	a
東京都稲城市ふれあいセンター平尾	c	a	/	あり	b d	/
東京都世田谷区茶論ONECOIN	c	a	/	あり	b	c
東京都多摩市ぶらっとラウンジ	c	a	/	あり	a b	/
東京都西東京市いきいき泉	c	a	/	あり	a b	/
東京都北区高齢者ふれあい食事会	c	/	/	あり	a b c d	/
埼玉県越谷市地域包括ケアネットワーク	a	a	/	/	a b c	/
埼玉県越谷市救急医療情報キット	a	a	/	/	a b	c
神奈川県川崎市ひとり暮らし等高齢者見守り事業	a	a b	/	/	a b	/
神奈川県川崎市高齢者見守りネットワーク・地域見守りネットワーク	a	a	/	/	a b c	/
神奈川県小田原市橘団地共助会	c	/	a b	あり	b	a c
神奈川県箱根町寄せ木の会	c	a	b	あり	b	a
神奈川県箱根町仙石原自治会ボランティアの会まごころ	c	a	/	あり	b	a c
神奈川県二宮町社会福祉協議会百合ヶ丘社協協会福祉ネットワーク	b	a b	a	あり	a b	/
神奈川県大磯町馬場さくらサロン	c	/	/	あり	a b	c
神奈川県秦野市下大槻団地自治会ニーズ対応チーム	d	a	a	あり	a	a
神奈川県大和市健康体操教室	c	/	/	あり	a b	/
神奈川県大和市茶-OH! (チャオ)	c	/	/	あり	b	a
神奈川県海老名市海老名ゆめクラブ友愛チームによる見守り活動	c	a	a	/	/	/
神奈川県平塚市高村団地東棟の活動	d	a b	/	/	a	a c
神奈川県鎌倉市長谷・坂ノ下見守り活動	b	a	/	/	a b	a
神奈川県藤沢市ひまわりサロン	c	c	/	あり	a b	a c
神奈川県藤沢市羽鳥地区高齢者のこまり事相談	f	a c	/	あり	a	a
神奈川県藤沢市実結コミュニティサロン「ハナミズキ」	c	a	/	あり	/	a
神奈川県茅ヶ崎市福祉なんでも相談	b	a c	/	/	a	a b
神奈川県横須賀市緊急医療情報キット「命の灯台」安心カード	b	b	/	/	a b c d	a
神奈川県横須賀市福祉コミュニティ 湘南たかとり福祉村	c	/	a	あり	a b	a b c
神奈川県川崎市宮前区ご近所サークル「ダイヤモンドクラブ」	c	/	/	あり	a b	a
神奈川県横浜市神奈川区ふれあい訪問の会	c	a b	a b	あり	a b	a
神奈川県横浜市戸塚区ドリームはいつ地区第2次見守り実証実験	c	e	/	/	b c	a

SOSネットワークと高齢者見守り活動の違い

名 称	実施 主体	見守り	生活 支援	生きがい 支援	連携	情報 共有
神奈川県横浜市金沢区ボランティアかたぶき	c	/	/	あり	/	a
神奈川県横浜市金沢区西柴団地福祉サービス	b	/	a b	あり	b	a c
神奈川県相模原市中央区宮下自治会防災対策活動	d	a	/	/	a b	a c
静岡県静岡市高齢者セルフレスキュー推進事業	a	a	/	/	a b	c
静岡県静岡市認知症しずメール事業	a	b d	/	/	a b	c
静岡県掛川市小地域福祉ネットワーク活動・協力企業による高齢者見守りネットワーク推進事業	a	a b	/	/	a b c	b c
広島県江田島市ひとり暮らし老人等緊急通報システム	a	a	/	/	a b c	/
広島県福山市「見守り支援員」養成講座	b	/	/	/	a b	b
香川県高松市地域で支え合う見守り活動に関する協定	a b	a	/	/	a b c	a b c
熊本県吉市高齢者見守りネットワーク・徘徊SOSネットワーク	a	a b d	/	/	a b c	a b
熊本県吉市安心生活応援団	b	a	/	/	b c	/
熊本県吉市小地域ネットワーク	b	a b	/	/	b	/
熊本県吉市命のバトン	a	a b	/	/	a b	
熊本県吉市ひとよしSOSキーホルダー	a	a b	/	/	a b	c
大分県臼杵市安心生活を守りキット事業	a	a b	/	/	a b	/
大分県臼杵市ゆうびんやさんと市役所が真心をお届けするサービス	a	a b	/	/	a c	/
鹿児島県薩摩川内市さつませんだい地域みまもりネット	a	a	/	/	a b c	/
福岡県福岡市「見守り推進プロジェクト」	a	a b	/	/	a b c	b c
福岡県大野城市「地域ケア会議」	a	a	/	/	a b	a c
福岡県春日市	d	a b	/	/	a b	a b c
福岡県糸島市	b	a b	/	あり	a b	c
福岡県北九州市ふれあいネットワーク活動	b	a b	a	あり	b	b c
福岡県築上町見守りネットワーク	b	a b	/	/	a b	b
福岡県飯塚市地域福祉ネットワーク委員会	d	a b		あり	a b	a b
福岡県大牟田市ご近所支え合いネットワーク（災害時等要援護者支援制度）	a	a b	/	/	a b	b
福岡県うきは市	a	a b	/	/	a b c	c
福岡県福津市	a	a	/	/	a c	/
新潟県新潟市東区寄りなせ「あいあい」	c	/	/	あり	b	/
新潟県三条市老人クラブ熟年いこいの会	c	a b	/	あり	a b	/
新潟県三条市NPO地域たすけあいネットワーク	c	a	a b	あり	/	/
新潟県胎内市乙老人クラブ	c	a	/	あり	a	b c
新潟県糸魚川市元気印の会	d	a b	/	あり	b d	b
新潟県長岡市NPO法人UNE	c	a	a b	あり	/	b c
新潟県長岡市中越福祉会	b	a b	a b	/	/	/
新潟県長岡市三古老人福祉会	b	a	b	/	b	b
新潟県上越市NPOよしかわたすけあい	c	a	a b	あり	c d	b
新潟県南魚沼市ひまわりの会	c	/	/	あり	b d	b
新潟県柏崎市よろんごの木	f	/	a b	あり	a b	/
新潟県津南町大井平集落高齢者等支援会	d	a	a	/	/	/
山形県鶴岡市第五学区見守り支え合い活動	b	a b	/	あり	a b c	a b c
山形県鶴岡市藤島地区あだがいさまのまちづくりふじの花ねっと活動	b	a b	/	/	a b	a b
山形県酒田市琢成地区・日向地区地域支え合い活動	c	/	/	/	a b c d	b

名 称	実施 主体	見守り	生活 支援	生きがい 支援	連携	情報 共有
山形県三川町成田新田地区	d	a	/	あり	a b	a b
山形県遊佐町蔵岡地区蔵岡ご近所ネット	d	a	/	あり	a b c	a c
山形県米沢市高齢者見守り支援事業	b	a	/	あり	a	/
山形県米沢市の一声事業	/	a	/	/	/	/
山形県米沢市あんしん電話事業	f	a	/	/	a	/
秋田県藤里町「在宅福祉(ネットワーク)活動事業」、 「在宅(ネットワーク)活動連絡協議会」	b	a b	/	/	a b c	a
栃木県「とちまる見守りネット」	a	a	/	/	a b c	/
岩手県奥州市「みまもりおーネット」	a	a	/	/	a c	/
岩手県奥州市小地域福祉ネットワーク事業「にこにこ ネット」	b	a b	a	あり	a b	/
岩手県奥州市ご近所福祉スタッフ	b	a	/	あり	a b	/
大阪府豊中市「安否確認ホットライン事業」	a	a	/	/	a b c	a b c
大阪府東大阪市「事業所ふくしネットワーク事業」	b	a	b	/	a b c	/
滋賀県野洲市「生活弱者発見緊急連絡プロジェクト」	a	a	/	/	a c	/
岡山県奈義町要援護全体の把握と見守り活動	a	a b	/	あり	a b	/

(注)

- ・実施主体：a. 行政 b. 社会福祉協議会 c. NPO・ボランティア団体等 d. 町会・自治会 e. 商店街 f. その他
- ・見守り：a. 声掛け、自宅訪問、安否確認、緊急連絡等 b. 名簿作成、利用者の事前登録、支え合いマップの作成等 c. 相談窓口 d. 行方不明高齢者の検索・保護 e. その他
- ・生活支援：a. ゴミ出し等の日常生活支援 b. 配食、宅配、送迎等のサービス
- ・連携：a. 官公 b. 民間 c. 産業 d. 学校
- ・情報共有：a. 連絡会議、例会 b. 研修、養成講座 c. チラシ、ポスター、会刊の作成、説明会、啓発会等

(出典) 厚生労働省社会援・援護局地域福祉課、2013、「孤立死防止対策取組事例の概要」〈<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12000000-Shakaiengokyoku-Shakai/0000034190.pdf>〉、消費者庁、2014、「「孤立死」対策としての見守り活動に係る個人情報の取扱事例集」〈http://www.caa.go.jp/planning/kojin/mimamorijirei14_1.pdf〉、神奈川県介護支援専門員協会2012、「平成23年度地域見守り体制構築事業 高齢者等の相談・見守り活動に係る取組事例集」、東京都福祉保健局、2011、「東京都における高齢者見守り活動・事業事例集～高齢者を地域で見守る50のヒント～」〈<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kourei/koho/mimamorizireisyu.html>〉、庄内総合支庁、2013、「高齢者見守り・支え合い活動推進事業 モデル取組地区活動事例集」〈<http://www.pref.yamagata.jp/ou/sogoshicho/shonai/337027/katudoujireisyuu/hyoshi.pdf>〉、福岡県福祉労働部福祉総務課、2012、「一人暮らし高齢者見守り活動事例集」〈http://www.pref.fukuoka.lg.jp/uploaded/life/69002_17479816_misc.pdf〉、新潟県、2015、「高齢者見守り・支え合い活動事例集」〈<http://www.pref.niigata.lg.jp/kourei/1356783072189.html>〉を基に、筆者が作成

IV. 考察

上述の研究結果から、SOSネットワークと高齢者見守り活動は大きく分けて「活動目的の違い」「活動内容の違い」「活動性質の違い」といった三つの違いがあると考えられる。

活動目的から見れば、SOSネットワークは地域で生活する認知症高齢者が行方不明になった

際、行方不明者を速やかに発見・保護することを目的としている。一方、高齢者見守り活動のほとんどが高齢者の社会的孤立・孤独死の防止を目的としていることが明らかである。

活動内容から見れば、SOSネットワークは行方不明の認知症高齢者の検索のほか、ネットワークの宣伝、事前登録制度の導入、発見後の一時保護や認知症高齢者本人及び家族の支援な

どが挙げられる。一方、高齢者見守り活動は、日常の声かけ、自宅訪問などの緩い見守りがほとんどであり、ほかにはお茶会などの生きがい支援、ゴミ出しなどの日常生活支援も見られる。

活動性質から見れば、SOSネットワークの活動は、「行方不明者が発生する」といった緊急時に発動するが、地域に密着している高齢者見守り活動のほとんどは高齢者の日常生活の中で緩い見守りをし、或いは高齢者の日常生活をサポートし、万が一緊急事態が発生した場合は警察、病院などの関係機関に連絡する。換言すれば、SOSネットワークの活動は緊急事態に対応するのに対して、高齢者見守り活動のほとんどは日常生活の維持に対応しており、緊急事態に直接対応する機能はないと言える。

確かに、見守り活動も高齢者が住み慣れた地域で生活しつづけることを可能にするには極めて重要である。地域住民が力を合わせ、日常生活の中で、支援が必要な高齢者を常に見守ることができたら、最終的に本間（2015）が言う「徘徊が散歩になる」街を作り出すという目標に達することができるであろう。しかし、年間1万人以上の認知症高齢者が行方不明になった現状からみれば、見守りだけでは不十分であり、SOSネットワークのような、徘徊する認知症高齢者を実際に捜索する仕組みはより重要であると考えられる。なぜならば、認知症高齢者が急増する現在、行方不明になった認知症高齢者を捜索することに対して、警察またはその家族だけの力では、不十分であり、地域全体の協力が必要である。

従って、認知症高齢者の徘徊問題から考えて、地域において、SOSネットワークのような緊急事態に直接対応できる機能の整備が求められる。換言すれば、行方不明の認知症高齢者を捜索する機能が必要と考えられる。日常生活の中で声かけ・自宅訪問などの緩い見守りを行いながら、行方不明が発生した際に速やかに捜索に取り組む仕組みが求められている。このような仕組み

こそ、地域で生活する認知症高齢者を全般的にサポートし、日常生活の中で徘徊傾向の有無を判断し、行方不明の発生を事前に防ぐことが可能である。万が一行方不明が発生したとしても、速やかに発見・保護することができるため、地域で安心・安全な生活が保障され、認知症になっても住み慣れた地域で生活し続けることができるようになる。

V. 今後の課題

本稿では、115団体の地域に密着している高齢者の見守りに関わる活動（SOSネットワークを含む）の事例を分析し、SOSネットワークと高齢者見守り活動の違いとして「活動目的の違い」「活動内容の違い」「活動性質の違い」の三つが抽出できた。また、認知症高齢者の徘徊問題に対する地域サポートとして、日常生活の中で声かけ・自宅訪問などの緩い見守りを行いながら、行方不明が発生した際に速やかに捜索に入る仕組みを提案した。さらに今後の課題として、このような仕組みをどのように構築し、継続的に運営していくのか、その方法について検討していきたい。

【注】

- 1) シルバー交番とは、高齢者の在宅生活の安心・安全を提供するため、地域高齢者の相談受付や生活実態の把握、関係機関と連携した見守り、緊急通報システムによる見守り等を行う。2015年度に「高齢者見守り相談窓口」として再整理された。
- 2) SOSネットワークに取り組んでいる団体の名称には必ずしも、「SOSネットワーク」という言葉を使用されるわけではない。

【引用・参考文献】

神奈川県介護支援専門員協会（2012）「平成23年度地域見守り体制構築事業 高齢者等の相談・見守り活動に係る取組事例集」

- 神崎由紀 (2013)「地域で暮らす高齢者の見守りの概念分析」『日本看護科学会誌』第33巻第1号、34-41 p.39
- 警察庁生活安全局生活安全企画課 (2013)「平成24年中における行方不明者の状況」<https://www.npa.go.jp/safetylife/seianki/H24yukuehumeisha.pdf> (2015/1/3 アクセス) p.3
- 警察庁生活安全局生活安全企画課 (2014)「平成25年中における行方不明者の状況」<https://www.npa.go.jp/safetylife/seianki/H25yukuehumeisha.pdf> (2015/1/3 アクセス) p.3
- 警察庁生活安全局生活安全企画課 (2015)「平成26年中における行方不明者の状況」<https://www.npa.go.jp/safetylife/seianki/fumei/H26yukuehumeisha.pdf> (2015/7/27 アクセス) p.3
- 厚生労働省 (2014)「認知症施策の現状について」http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/0000065682.pdf (2015/5/13 アクセス)
- 厚生労働省 (2014)「行方不明になった認知症の人等に関する調査結果」http://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-12304500-Roukenkyoku-Ninchishougyakutai-boushitaisakusuishinshitsu/1_1.pdf (2015/5/6 アクセス)
- 厚生労働省社会援・援護局地域福祉課 (2013)「孤立死防止対策取組事例の概要」http://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-12304500-Roukenkyoku-Ninchishougyakutai-boushitaisakusuishinshitsu/1_1.pdf (2015/5/6 アクセス)
- 高齢者見守り研究会 (2010)「高齢者見守り研究会報告書」<http://www.chouju.org/ezcatfiles/chouju/img/img/2471/151112649.pdf> (2015/6/23 アクセス) p.19
- 小林良二 (2011)「虚弱な高齢者に対する地域住民の『見守り』について」『地域におけるつながり・見守りのかたち：福祉社会の形成に向けて』東洋大学福祉社会開発研究センター編集、中央法規、300-325 p.300
- 境美津枝 (2004)「痴呆性高齢者とその家族のための地域支援体制——徘徊高齢者等SOSネットワークシステムを中心に」、『精神認知とOT』、第1巻第3号、214-221
- 坂本誠 (2014)『都市と農山漁村の「高齢化」問題とその対応策』、『地域は消えない——コミュニティ再生の現場から』、岡崎昌之編、日本経済評論社、349-369
- 佐藤通生 (2015)「認知症対策の現状と課題」http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_8943898_po_0846.pdf?contentNo=1&itemId=infondljp/pid/8943898&_lang=en (2015/6/16 アクセス)
- 庄内総合支庁 (2013)「高齢者見守り・支え合い活動推進事業 モデル取組地区活動事例集」<http://www.pref.yamagata.jp/ou/sogoshicho/shonai/337027/katudoujireisyuu/hyoshi.pdf> (2014/10/9 アクセス)
- 消費者庁 (2014)「『孤立死』対策としての見守り活動に係る個人情報の取扱事例集」http://www.caa.go.jp/planning/kojin/mimamorijireil4_1.pdf (2014/10/9 アクセス)
- 田中元 (2011)「求められる認知症高齢者の徘徊・見守りへの対応力の強化」、『ガバナンス』、第117号、98-100
- 東京都福祉保健局 (2011)「東京都における高齢者見守り活動・事業事例集～高齢者を地域で見守る50のヒント～」<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kourei/koho/mimamorizireisyu.html> (2014/9/3 アクセス)
- 東京都福祉保健局 (2013)「高齢者の見守りガイドブック～誰もが安心して住み続けることができる地域社会を実現するために～」<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kourei/koho/mimamoriguidebook.files/ikkatu.pdf> (2015/9/19 アクセス) pp.3-4

SOSネットワークと高齢者見守り活動の違い

- 徳永清輝、佐伯幸郎、松本真佑、中村匡秀 (2014)「高齢者向け見守りサービスの分類に関する考察」、『信学技報』第113巻第469号、169-174
- 内閣府 (2012)「高齢者の健康に関する意識調査」
<http://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/h24/kenkyu/zentai/index.html> (2015/7/1アクセス) p.144
- 内閣府 (2015)『平成27年版高齢社会白書』<http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/index-w.html> (2015/7/1アクセス)
- 永田久美子、桑野康一、諏訪免典子 (2011)『認知症の人の見守り・SOSネットワーク実例集——安心安全に暮らせるまちを目指して』中央法規 p.8
- 新潟県 (2015)「高齢者見守り・支え合い活動事例集」
<http://www.pref.niigata.lg.jp/kourei/1356783072189.html> (2015/9/4アクセス)
- 林谷啓美、田中論 (2014)「認知症高齢者の行動・心理症状 (BPSD) に対する支援のあり方」、『園田学園女子大学論文集』第48号105-112 pp.
- 福岡県福祉労働部福祉総務課 (2012)「一人暮らし高齢者見守り活動事例集」http://www.pref.fukuoka.lg.jp/uploaded/life/69002_17479816_misc.pdf (2014/10/9アクセス)
- 布施泰男 (2012)「望まれる地域の実態に応じた高齢者の見守りサービス」『The journal of JAHMC』第23巻第1号 27-30
- 本間昭・猪熊律子 (2015)「新オレンジプランと認知症ケア」『月刊福祉』第98巻第8号 12-18 p.15